

ビール大麦技術資料 2月号

令和6(2024)年2月29日
下都賀農業振興事務所

重点ポイント

- ① 計画的に麦踏みを行いましょう！
- ② 雑草防除は早めに行いましょう！
- ③ 確実な排水対策を実施しましょう！

1 生育概況と気象の経過（小山市アメダス）

1月～2月にかけて平年より気温は高くなり、適度な降雨がありました。11月中～下旬に播種したほ場では、生育の早まりや分けつ数の増加はあまり見られず、おおむね平年並みの生育です。12月以降に播種したほ場では、出芽までに時間がかかったため、現在も生育遅延が続いています。

2月5日の積雪による生育への影響は、まだ見られていません。

	1/1-15	平年差・比	1/16-31	平年差・比	2/1-7	平年差・比
平均気温	3.7℃	+0.8℃	5.8℃	+2.3℃	3.5℃	+0.4℃
降水量	4mm	25.5%	26mm	123%	16mm	264%
日照時間	103時間	102%	114時間	107%	30時間	72%

2 気象庁の1か月予報（2月29日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 03/02～04/01	20 40 40
		1週目 03/02～03/08	30 50 20
		2週目 03/09～03/15	20 40 40
		3～4週目 03/16～03/29	20 40 40
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 03/02～04/01	30 30 40
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 03/02～04/01	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

向こう1か月の平均気温は高く、降水量はやや多い見込みです。タイミングを見計らって麦踏みをしましょう！



これからの栽培管理

◎茎立期まで麦踏みを続けましょう

* 茎立ち期直前の麦踏みは穂揃いを良くし、成熟ムラのない倒伏しにくい麦にする効果があります。

茎立期（3月上旬頃）までに最低2回（麦踏の間隔は概ね2週間程度空ける）を目安に、踏めるチャンスを逃さずに麦踏みを行いましょう。

草丈30cm程度が幼穂長2cmの目安になります。



土壤水分が高いときは、
土壤が硬くなり、生育不良
を招くので避けましよう。



茎立期



これで
1.4cm

★茎立期とは・・・

幼穂長が2cmの時期のこと。

幼穂長の測り方は、麦の主茎（分かりづらければ、株内で最も太い茎）の葉身と葉鞘を丁寧に剥き、株の根本から幼穂の穂首までを測る。（左図参照）

◎湿害対策を実施ましよう

湿害対策が収量確保のポイントです。雨水が圃場にたまらないように気をつけましよう。

* 明きよは排水路に繋がっていますか？

* 溝よりも排水口の位置が高くなっていませんか？



明きよを排水路に繋ぎ
確実な排水対策を！



播種時に設置した明きよや排水溝が、麦踏み等によって崩れている場合があります。再度点検し、降雨後速やかに排水できるようにましよう。

◎雑草を防除しましょう

ほ場ごとの雑草の発生状況を確認し、早めの防除を心がけましょう。

表 ビール大麦に登録のある主な除草剤 (令和6年2月1日時点で登録のある薬剤)

農薬名	適用雑草名	使用時期
バサグラン液剤	一年生雑草(イネ科を除く)	生育期(雑草の3~6葉期)、 但し収穫90日前まで
ハーモニー75DF 水和剤	一年生広葉雑草、 スズメノテッポウ*	は種後~節間伸長前
	カズノコグサ	麦1葉期~節間伸長前
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	大麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2~4葉期)但し、 収穫45日前まで

注) 農薬を使用するときは、ラベルをよく読み使用方法をきちんと守りましょう。

*: 抵抗性スズメノテッポウが認められるほ場でのハーモニーの使用は留意しましょう。



スズメノテッポウ 4~5葉期頃
これ以上大きくなると
除草剤はもう効きません!



ヤエムグラ 生育中期
ここまで大きくなると
除草剤はもう効きません!



イヌタデ 生育初期

茎葉処理剤の効かない スズメノテッポウが散見されます

近年、県内各地でスルホウレニア系（ハーモニー）抵抗性スズメノテッポウが散見されます。**麦収穫後～次作にかけて総合的防除により対処しましょう！**

抵抗性スズメノテッポウの防除のポイント

- ① プラウ等で天地返しし、雑草種子を土中に埋め込みましょう！
- ② 耕起前に非選択性除草剤（ラウンドアップ等）を散布しましょう！
- ③ 土壌処理剤の効果を高めるため、
液剤は登録の範囲内で希釈水量を多めに散布しましょう！
- ④ 砕土は丁寧に行い、均等な処理層を作りましょう！

播種後に湿潤な暖冬で推移すると、スズメノテッポウは「だらだらと発生」が続きます。そのため茎葉処理剤による防除が広く行われていますが、抵抗性スズメノテッポウには効果が低いため、発生ほ場では防除方法を見直しましょう。

◎その他

酸性土壌や苦土不足により麦の葉が黄化しているほ場が見られます。また、畑地の連作ほ場ではマンガン欠乏による生育不良が見られます。そのような症状が見られる場合は次の作の前に、土壌診断に基づき土づくり肥料の施用を行います。

※目標 pH は 6.5 です。



農業機械を使用する時は、転落・転倒等の事故のないように十分注意しましょう！



問い合わせ先

栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0282-24-1101

HP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html>